

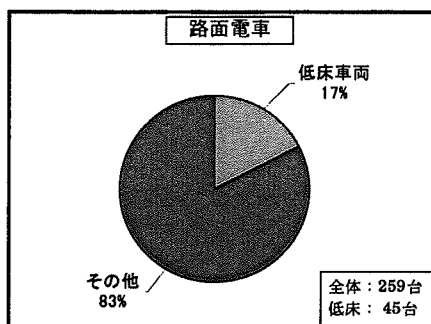
イ. 低床車両の導入状況

現在の広島市域の路面電車・バスへの低床車両の導入比率は、路面電車で17%、バスではわずか5%であり、充分とはいえない状況です。

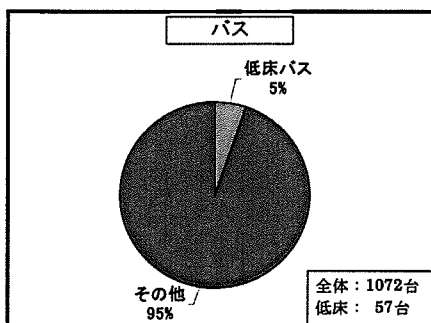
低床車両の導入状況

| 区分 | 全体 | 低床式 | その他 |
|------|-----------------|---|-----------------|
| 路面電車 | 259台 (137編成) | 45台 (9編成) | 214台 (128編成) |
| バス | 1,072台 | 57台 (ノンステップ・16台 ワンステップ・39台 リフト付き・2台) | 1,015台 |

(資料は広島市道路交通局調べ。平成14年(2002年)3月末時点)



低床路面電車【グリーンムーバー】



低床バス【ノンステップバス】

ウ. 旅客施設の現況

交通バリアフリー法の施行に伴い示された「移動円滑化の促進に関する基本方針」では、1日当たりの平均的な利用者数が5,000人程度以上ある旅客施設*については、平成22年(2010年)までにバリアフリー化を図ることが目標とされています。

広島市内には、JR各駅や路面電車の停留所、アストラムラインの駅など、130余りの旅客施設がありますが、次ページの一覧表のとおり、現在36施設で1日当たり5,000人以上の利用者があります。

これらの施設のなかで、バリアフリー化の指標の一つとなる昇降施設(エレベーター、エスカレーター等)の整備状況を高低差が5m以上ある施設について見ると、平成6年(1994年)8月に開業したアストラムライン各駅や、平成9年(1997年)3月に改修されたJR瀬野駅、及びJR広島駅の一部で整備されているほかは未整備となっています。

※ 1日の利用者数が5,000人未満でも、以下の条件では、交通バリアフリー法の対象となる施設もあります。

(ア) 当該市町村の高齢化率等の地域状況からみて、高齢者、身体障害者などの方々の利用者が、1日の利用者数5,000人以上の旅客施設と同程度と認められる場合

(イ) 徒歩圏内に、相当数の高齢者、身体障害者などの方々が利用する施設が存在し、移動円滑化事業を優先的に実施する必要性が特に高いと認められる場合

1日当たりの利用者が5,000人以上の旅客施設の現況（乗客数：平成11年度実績）

| 区分 | 路線等 | 駅名等 | 乗降客数 (人/日) | EV、ES*1 の有無 | 備考 |
|-----------------|-----------------------|-----------|---------------|---------------------------|---|
| JR 西日本 ㈱ | JR山陽本線 | 瀬野 | 5,538 | ○ | |
| | | 中野東 | 6,614 | × | |
| | | 安芸中野 | 5,928 | × | |
| | | 広島 | 145,120 | △ | 新幹線及び一部の在来線ホームにエスカレーター有り 車いす用エレベーター(駅員の随行が必要)は各ホームに有 |
| | | 横川 | 29,736 | △ | 駅前広場整備計画に併せ検討中 |
| | | 西広島 | 19,718 | △ | 駅周辺整備計画に併せ検討 |
| | | 新井口 | 14,756 | × | |
| | 五日市 | 24,412 | × | | |
| | JR呉線 | 矢野 | 14,142 | △ | 駅及び駅周辺整備計画に併せ検討中 |
| | JR可部線 | 安芸長束 | 5,116 | — | |
| 下祇園 | | 7,364 | — | | |
| 大町 | | 11,148 | △ | 駅改札は2Fにあり、エレベーターはバスターミナル側 | |
| 可部 | | 7,206 | — | | |
| 広島電鉄 ㈱ | 宮島線 | 古江 | 6,284 | — | |
| | | 商工センター入口 | 7,552 | — | |
| | | 鈴峯女子大前 | 5,098 | — | |
| | | 広電五日市 | 8,366 | — | |
| | | 楽々園 | 10,754 | — | |
| | 市内線(軌道) | 広島駅 | 33,793 | — | |
| | | 胡町 | 6,164 | — | |
| | | 八丁堀 | 15,168 | — | |
| | | 立町 | 7,597 | — | |
| | | 紙屋町東 | 9,369 | — | |
| | | 紙屋町西 | 19,352 | — | |
| | | 十日市町 | 5,648 | — | |
| | | 土橋 | 6,853 | — | |
| | | 広電西広島(己斐) | 29,934 | — | |
| 本通 | 7,879 | — | | | |
| 広島 高速交 通㈱ | アストラムライン (新交通システム) | 本通 | 18,910 | ○ | |
| | | 県庁前 | 15,978 | ○ | |
| | | 中筋 | 5,735 | ○ | |
| | | 大町 | 10,273 | ○ | |
| | | 安東 | 5,913 | ○ | |
| | | 上安 | 6,049 | ○ | |
| バスターミナル | 広島バスセンター | 42,674 | — | | |
| 旅客船ターミナル | 宇品港ターミナル | 9,982 | — | | |
| 計 36施設 | | | | | |

- *1 {
- : 高低差5m以上の駅等で、エレベーター、エスカレーターの設置がある
 - ×
 - △ : 高低差5m以上の駅等で、エレベーター、エスカレーターの設置(予定等含む)が一部ある
 - : 平面駅

前項のバリアフリー化を図るべき旅客施設の中でも、高低差が5m以上あり、バリアフリー化されたエレベーター、エスカレーター等のない施設は早期にバリアフリー化が望まれており、JR山陽本線の中野東駅、安芸中野駅、広島駅、横川駅、西広島駅、新井口駅、五日市駅の7駅がこれに該当します。

この7施設について、さらに周辺施設の分布状況や交通結節点としての機能についての調査を行った結果は以下のとおりで、JR広島駅は、乗降客数、公共公益施設の分布状況、交通結節点としての役割の重要性など、特に整備効果が高いと考えられます。

主要各駅の公共公益施設の分布状況及び交通結節機能状況

| 駅名 | 乗降客数 (人/日) | 公共公益施設の分布状況 *1 | | | | | | | 交通結節機能状況 |
|------|---------------|----------------|---|---|---|----|----|----|--------------|
| | | A | B | C | D | E | F | 合計 | |
| 中野東 | 6,614 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 4 | 8 | JR *2 |
| 安芸中野 | 5,928 | 1 | 2 | 1 | 2 | 0 | 6 | 12 | JR |
| 広島 | 145,120 | 3 | 2 | 5 | 7 | 23 | 29 | 69 | JR・新幹線・電車・バス |
| 横川 | 29,736 | 1 | 2 | 3 | 3 | 0 | 15 | 24 | JR・路面バス |
| 西広島 | 19,718 | 2 | 7 | 1 | 1 | 0 | 12 | 23 | JR・路面バス |
| 新井口 | 14,756 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 13 | 19 | JR・路面バス |
| 五日市 | 24,412 | 1 | 2 | 2 | 3 | 0 | 12 | 20 | JR・路面バス |

*1) A～Fは下記表の区分を示す。

*2) JR: JR 在来線、電車: 路面電車

* 公共公益施設の選定基準

公共公益施設を選定するにあたっては、ハートビル法などの国の基準や、高齢者、身体障害者などの方々の利用状況などを考慮し、以下のような選定基準で選定を行いました。

- ・旅客施設から概ね1km圏内に立地している施設
- ・旅客施設を經由して広域的に利用される施設
- ・官公庁や福祉施設などの公共施設

また、対象とする施設の区分は以下のとおりとしました。

| 区分 | 対象施設の例 | 備考 |
|------------------------------------|---|-------------------------------|
| A 官公庁施設 | 官公庁(市役所、区役所、ハローワーク等) | 官公庁は、一般市民の利用が見込まれる施設のみを対象とする。 |
| B 社会福祉施設 | 老人福祉施設、児童福祉施設、身体障害者更生援護施設等 | |
| C 医療施設 | 病院(一般診療所、歯科診療所は除く) | 病院の定義(病床数20以上)は、医療法の分類による。 |
| D 教育文化施設、コンベンション施設、スポーツ・レクリエーション施設 | 公民館、図書館、博物館、映画館、ホール、会議施設、展示施設、体育館等 | |
| E 宿泊施設 | ホテル、旅館等 | 宿泊施設は客室数50室以上を対象とする。 |
| F 商業施設、銀行・郵便局 | 大型小売店(百貨店、スーパー)、銀行、郵便局等(本店等、相当数の利用者を見込むものに限る) | 百貨店、スーパーの定義は経済産業省の分類による。 |

ア. JR広島駅の位置付け

JR広島駅は、広島市の陸の玄関口であり、また、1日当たり乗降客数約14万5千人の利用があり、中四国地方最大の旅客施設となっています。JR在来線、新幹線、路面電車、バスといった公共交通機関の市内における主要発着駅となっており、JR線から他の公共交通機関への乗換えだけでなく、各公共交通機関相互の乗換えを担う重要な交通結節点機能を有しています。

また、JR広島駅周辺地区には、公共施設、社会福祉施設、医療機関などが多数立地しています。特に北口地区には、広島市心身障害者福祉センターや児童療育指導センターなどの社会福祉施設が集中しており、相当数の障害者による利用が見込まれます。また、大型小売店や宿泊施設等の集客施設の集積も高く、市内外から多くの人々が訪れています。

さらに、同駅北口地区では今後、高次都市機能の集積や都市空間の整備構想が計画されています。また、同駅南口周辺地区や西荒神地区では、駅前Bブロック再開発事業の推進が予定されており、今後さらなる都市機能の集積が見込まれます。

以上のことから、JR広島駅の交通結節機能を強化するとともに、周辺地区に点在する公共公益施設への円滑な移動を確保することが、広島市における交通バリアフリー化の最も緊急の課題であり、交通バリアフリー法に基づく基本構想を作成し、一体的かつ重点的に整備を進めます。

イ. その他の旅客施設

JR広島駅以外の旅客施設についても、横川駅、五日市駅などのJR駅をはじめとして、高低差の解消を中心としたバリアフリー化が急がれる施設が多く、利用者数や駅施設の現状、周辺施設の整備状況などを考慮しながら、順次取り組んでいく必要があります。

また、平面で利用できる旅客施設についても、スロープ、手すり、車いす利用が可能な幅の確保など、工夫をしながら可能なものから改善を進める姿勢が必要です。